

# 医療九条の会・北海道 会報 第11号

発行：2010年8月 発行責任者：猫塚 義夫

札幌市北区北14西3 1-12 TEL(011)758-4585 FAX(011)716-3927 9jyo@dominiren.gr.jp



## 核廃絶をめざして

—NPT再検討会議・ニューヨーク行動を終えて—

勤医協にしまちクリニック 川島 亮平

### はじめに

私がNPT再検討会議にむけてのニューヨーク行動に参加することに正式に決まったのは昨年9月の「非核の政府を求める北海道の会（以下非核の政府・北海道）」の年次総会であった。

「代表派遣」の話が出たときは、「他に行く人がいなければ行かなくてはならないのでは」という消極的な立場でしかなかった。体力的なことや業務の目処の不安もあってのことだった。しかし札幌医大に入学して2年目の夏、私にとって自らの意志で初めてかかわった社会的活動であり、その後の医師として、また人間として生きる上での原点にもなった『原水禁運動』。以来44年間ずっと醸し続けていた「核廃絶」への思いと、私自身としては2回目の参加となった2007年の原水禁長崎大会で感じた「核廃絶を願うすべての運動が2010年のNPT再検討会議に向かって大きく、また力強く胎動している」ことを思い起こし、そこに参加して自分もこの流れに積極的にかかわりたい、かかわるべきだと思う前向きな気持ちが次第に強くなっていったのである。



核戦争に反対する北海道医師・歯科医師の会(反核医師の会)と合同で開催した報告会での筆者  
(6月26日)

### \*\*\*「会報」第11号 もくじ \*\*\*

核廃絶にむけて—NPT再検討会議・ニューヨーク行動を終えて— 川島亮平（勤医協にしまちクリニック）	1
最新アフガニスタンレポート 西谷文和（フリージャーナリスト）	4
お知らせ	7

## 代表に決まって

「非核の政府・北海道」の総会での決意表明のあいさつで、私はNPT再検討会議の成功のために必要なこととして、次の3点を強調した。

第一は、核廃絶を願う人々の思いを、2008年の原水禁広島大会で提起された「国際署名」に託し運動を広めること。そのためにたくさんの署名を集めること。第2に、絶対に繰り返すことが許されない「核」の被害・「被爆の実相」をあらためて多くの人々に知らせること。そして第3に、核に固執する勢力に根強く存在する「核抑止力論」「核の傘論」とのたたかいが理論と実践の両面から必要なこと。

## 私の目標ととりくみ

私が代表としての本格的なとりくみを始めた頃、「民医連新聞」で京都民医連のK医師が「NPT再検討会議・ニューヨーク行動に向けて、一人で1000筆の署名を集めた」という記事を見て、私も最低1000筆の署名を集めなくてはと考えた。友人、知人や、患者会の催しなどに参加しての訴えはもちろん、なによりも私が依拠したのは、10年間のお付き合いになった勤医協西区病院の予約外来の患者の皆さんと、にしまちクリニックの訪問診療の在宅の患者の皆さんであった。

外来でも訪問宅でも、一人ひとりに「署名と募金」を訴えた手紙と関連資料をわたし、2～3ヶ月後の次の予約外来受診日、在宅は次回訪問日までの署名を集めてもらうことと、少額でよいので募金もお願いするという活動が日常的に続けられた。これはお願いした患者の皆さんを通して、その周りの人たちにNPT再検討会議が開かれることを知らせ、核廃絶への思いを署名に託す波動的な運動として広がっていった

一方、代表に決まってから「非核の政府・北海道」の集会だけでなく、西区病院や勤医協の会、病院のある札幌西・手稲地域の原水爆禁友



日本から国連に届けられた署名は690万筆に達した（国連ビル前で）

止協議会や地域9条の会の集会・学習会で話したり訴えたりする機会も増えた。また街頭に立って直接署名を訴えるなど忙しい日が続いたが、同時に職場や地域での活動が活性化され、目に見えて前進していく様子が身近に感じられるようになった。それが励みになり私自身の活動もすすみ、ニューヨークに発つ前日までの集めた署名は目標を大きく上回る2281筆になっていた。募金も30万円を超えるものになった。

## もう一つの思い

NPT再検討会議にむけて私にはもう一つの強い思いがあった。西区病院に勤務するようになって、私は5人の被爆者の主治医として診療にあたってきたが、うち2人が「北海道原爆症認定集団訴訟」の原告になった。その一人、Yさんは裁判当初、肝硬変はすでに進行していて裁判に耐えられるのだろうか心配していた。経過とともに検査データはさらに悪化し、体力の低下もすすんでいったのに、気力は反対に充実していき、集会などでは励ますはずの私たちが逆に励まされることになった。そんなYさんが私の外来でしみじみと「このごろ、私は本当に長生きしたいと思うようになりました」と語って半年後、昨年5月、認定確定の判決（10月）を聞かずに亡くなった。被爆者には残された時間は本当に少ない。Yさんの悔しい思いを

なんととしてもニューヨークに届けなくてはと心から思った。

## ニューヨーク行動

私たち北海道代表团 29 人は（北海道民医連関係者は私も含め 9 人）は 4 月 30 日、そろって成田を発ち、ニューヨークに向かった。5 月 1 日午前はセントラルパークで、午後はマンハッタンの街頭での署名活動。2 日午前、翌 3 日から始まる日本原水爆被害者団体協議会の「原爆展」のパネルがすでに展示されてあった国連本部のロビーの見学。午後は国際行動デー、タイムズスクエアでの集会とハマショルド広場までのパレード。3 日午後、リバーサイドチャーチでのピースコンサートと公開シンポジウムに参加。4 日午前、SEIU での「医療・福祉関係者のつどい」に参加。これが私のニューヨークでの行動である。

そして私たちの行動の合間に伝えられてくる（国際平和会議での）潘基文国連総長の発言や NPT 再検討会議カバクチュラン議長の発言は私たちのこれまでの活動が、691 万 2802 筆の署名が「核廃絶」に向けて世界を大きく動かしているのだという確信となって私たちを励ましてくれた。5 月 5 日、私たちは NPT 再検討会議の成功を予感・期待しながら、ニューヨーク・ケネディ空港を後にした。

## NPT 再検討会議閉幕

5 月 28 日、NPT 再検討会議が閉幕した。最終文書は全会一致で「核兵器の完全廃絶に向けた具体的措置を含む核軍備撤廃に関する『行動計画』にとりくむこと」で合意した。これは「核のない世界」に向けての重要な一歩前進である。同時に「核廃絶のための行程表を検討する交渉の開始」は一部の核保有国の同意が得られず、最終文書に盛り込まれなかった。

私たちは今回の NPT 再検討会議の重要な前進に確信を持ち、引き続き「核廃絶」をめざし

て運動を大きく進めていかななくてはならない。そして「核抑止力論」に固執する一部の核保有国と、これに追随して「核の傘」にしがみつく日本政府を包囲するような大きな世論を形成していく必要がある。



セントラルパークで米市民に署名を訴える筆者



タイムズスクエアからパレードする北海道代表团（右から 6 人目が筆者）

### 潘基文国連総長の発言

私は皆さんが人類の大志のためにどれだけ犠牲を払って活動しているか知っています。核廃絶は私の優先課題です。「核のない世界」は達成できないゴールではありません。私は核兵器禁止条約を核保有国に迫ります。政府を動かすには皆さんの力が必要です。各国政府に迫りましょう。

### NPT 再検討会議カバクチュラン議長の発言

私は昨日、署名を受け取りました。市民社会の熱意に私は応えなければなりません！

（「民医連医療」2010 年 8 月号より転載）

# 最新アフガニスタンレポート

西谷 文和（フリージャーナリスト）



6月上旬の2週間、アフガニスタンに取材に入った西谷文和さんが、8月6、7日札幌を訪れました。

第11回憲法セミナー、菊水カフェ（勤医協札幌病院内）には、あわせて100人ほどの会員、市民が参加して、現地で撮影された映像を上映しながら、日本のマスコミが報じなくなっている現地の状況を報告しました。

ここでは、西谷さんが主催する「イラクの子どもを救う会」ブログから取材レポートを転載いたします。

## 今回の取材を振り返って

2010年6月14日

今回の取材は2週間という短期間であったが、インディラガンジー病院、ジャララバード中央病院、マライ産科病院などを周り、あらためて戦争と貧困がもたらす悲劇が深刻であることを確信した。

悲惨だったのは、インディラガンジー病院の「やけど病棟」。

アフガンの乳幼児が大やけどを負うケースが多い。最初はなぜ？と疑問に思ったのだが、取材を進めるうちに原因が判明した。

貧困である。

避難民キャンプが象徴的だが、狭いテントに10数人が折り重なるようにして眠る。寒い夜、少しでも暖をとろうとお茶を沸かす。電気のない暗闇の中、細心の注意を払っていても、その熱湯がテントに眠る赤ちゃんに浴びせられてしまうことが多いのだ。

都市ガスも電気もない狭いテントで、家族のためにお茶を沸かした母親が、何かの拍子につまづいて転ぶ。そして悲劇が・・・。



「やけど病棟だけで患者が一杯だ。やけど専門の病院が必要。日本の力で建設できないか?」。やけどで重篤な赤ちゃんには、少しでも清潔な環境で治療することが大事だと、ハビブ医師は言う。

「やけど病棟」と並んで、いやそれ以上に悲惨だったのが「新生児集中治療室」だった。放射線によるとしか考えられない先天性の奇形の子どもたち。ほとんどが助からない。アフガンでは、あのような劣化ウラン弾の被害者を見る機会が少なかった。

しかしジャララバードのアジュマル医師は「道路が整備されてきて、郊外都市から急患が運び込まれるようになった。それでたくさんの先天性の奇形児が入院できているのだ」と証言した。

アフガンに比べ、イラクの都市インフラは進んでいる。従ってバグダッドの子ども病院は、多くの都市からがんと子どもが入院していた。

アフガンで、そういった子どもが少ないのは、劣化ウラン弾の被害者が少ないのではない。カブールまでたどり着けないだけなのだ。

今回の取材で、あらためて劣化ウラン弾の非人道性を痛感した。

オバマ大統領は「核兵器を使った道義的責任」を表明した。しかし現在使用を続けている劣化ウラン弾も、ある種の核兵器ではないのか?

03年バグダッドの病院で、多くのがんと子どもとであってから、私は「イラクの子どもを救う会」を作った。あれから7年。被害は収束するどころか、急速に拡大している。

国際社会が、もっともこの問題に目を向けるべきだ。

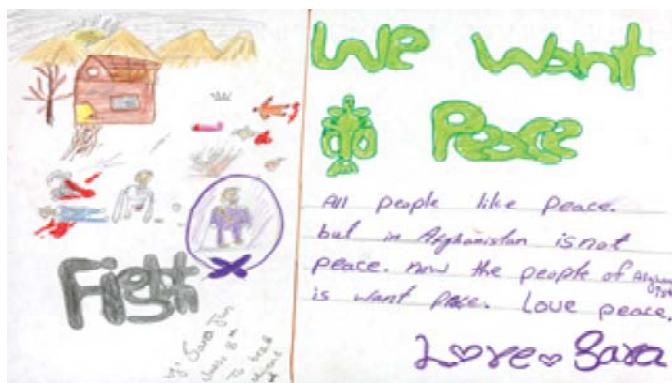
6月12日、私は無事日本に帰国した。アフガンの孤児たちが描いた絵には、すべて「PEACE」という文字が記されている。全てだ。

私たちは、平和は当たり前の空気のようなもの、と感じているかもしれない。しかし世界には「戦争しか知らない子どもたち」がいる。そしてその「戦争しか知らない子どもたち」を空爆する米軍は、沖縄から飛び立っている。

その事実から目をそらしてはいけない。あらためてそう感じた今回のアフガンであった。

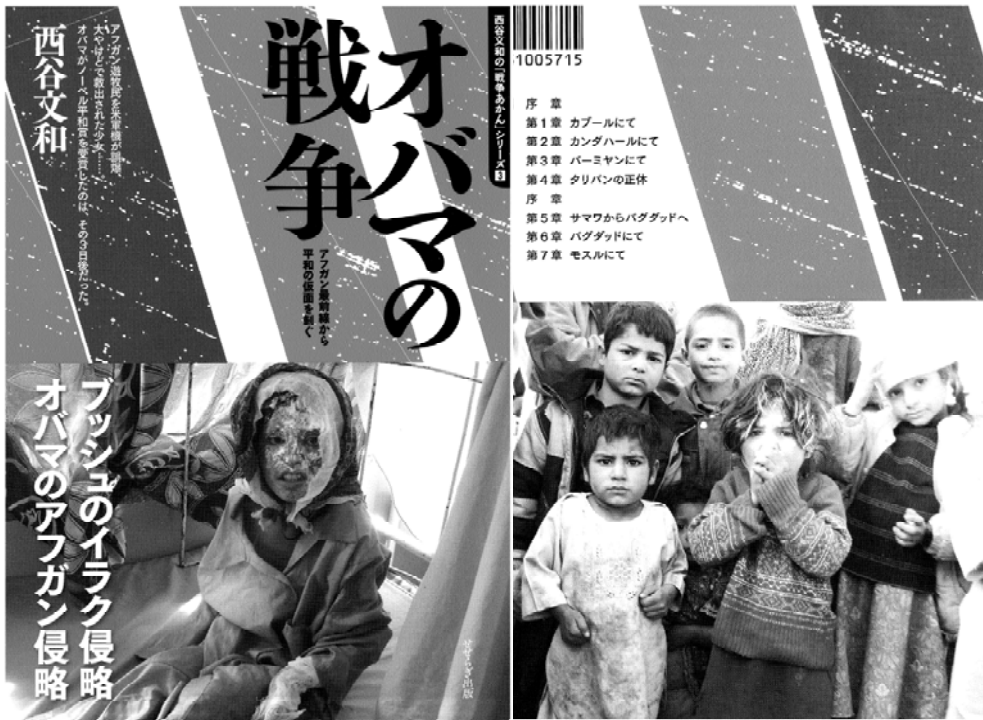
(「イラクの子どもを救う会」ブログより)

勤医協札幌病院待合室で開かれた「菊水カフェ」の様子



# 西谷 文和さんの著書・紹介

## ブックレット「戦争あかん」シリーズ3 オバマの戦争



2010年2月 発行  
A5サイズ  
63ページ  
定価 600円

## DVD「戦争あかん」シリーズ4

# GOBAKU



2010年7月 発行  
本編50分

定価 1000円

両作品とも、当会事務局で扱っています（送料無料）。どうぞお申し出下さい。

\*\*\*\*\* お知らせ \*\*\*\*\*

## 結成4周年記念講演会 堤未果・むのたけじ講演会のご案内

今回の講演会は、札幌市・教育委員会と並んで、札幌市医師会からもご後援をいただくことができました。

広く市民の方々、医療関係の皆さんにも呼びかけていくことにしています。ご案内のチラシを同封いたしましたので、ぜひお知り合いの方にお知らせ下さいますよう、よろしく願いいたします。

と き	9月18日(土)	午後2時から5時まで
ところ	共済ホール	(札幌市中央区北4西1)
参加費	1000円(高校生以下 障害者は無料)	

## 会費納入のお願い

今年度は、年度総会講演会にノーマ・フィールドさんをお招きし、4月には反核医師の会などと共に、シンポジウム「核(原子力)と人類は共存できるか」を開催してきました。また、加藤周一さんのドキュメンタリー映画「しかし、それだけではない」上映会にも協力し、これまでつながりのなかった方々と手をつなぐことができました。

こうしたとりくみを支えるために、今年度から年会費の増額をお願いしております(医師・歯科医師：5000円 その他の職種の方：2000円)。

今年度(過年度も含め)未納の方には、振込用紙を同封させていただきましたので、ご協力のほどどうぞよろしくお願いいたします。

## 九条の会関係ブックレット・DVDを扱っています

- ブックレット「加藤周一が語る 聞き手：小森陽一」(08年11月) 定価 300円
- DVD「加藤周一さん 九条を語る」(09年6月 本編43分) 定価 1200円  
東大や早稲田大学などでの講演からエッセンスを抜粋した「加藤周一『九条』論の集大成」
- DVD「岩盤を穿つ」(10年6月 本編150分) 定価 1000円  
グリーン九条の会が今年5月、札幌市で開催した湯浅誠講演会の記録です

ご注文いただければ、1枚から送料無料でお送りします。どうぞお申し込み下さい。

\*\*\*\*\*